

令和7年度  
すくわくプログラム活動報告書

(実施対象：0～5歳児クラス)

モニカ都立大園

M  nica

テーマ

## たけのこ

### 設定理由

- 旬の食材を知り、食への関心を深める。
- たけのこの形や重さ、皮の手触り、香り、調理後の味など、実際に触ったり食べたりする活動を通して、五感で感じながら感覚や好奇心を育めるように。

### 対象クラス

0～5歳児クラス・66名

### 活動のねらい

旬の食材に触れ、  
五感を使った体験を通じて豊かな感性を育む

### キーワード

「なにか変わった？」 「これはなんだろう？」  
「どんな風に見える？」  
「どうなっている？」 「〇〇(特徴等)だね」

### 活動期間

令和7年4月～5月

### 活動回数

計4回

## 活動①

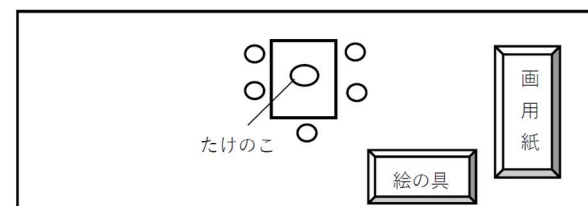
### たけのこを描く

#### 準備物

たけのこ | 白の画用紙 | 黒の細ペン | 絵の具パレット | 色を混ぜるためのパレット | バケツ  
水拭きタオル | 筆(中、小の太さ) | 机(1) | 椅子(5)

#### 環境構成

子ども3~4人程度で行う。たけのこに触れ、  
手触りや色味、匂いを感じられる環境で行う。



## 活動②

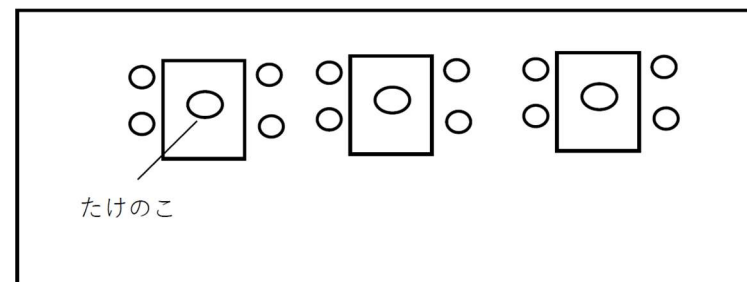
### たけのこに触れる

#### 準備物

たけのこ | ラップ | 机 | 椅子 | ビニール袋

#### 環境構成

1テーブルに3~4人程度で座り順番にたけのこの観察を行う。皮をむき、匂いの変化や皮の質感など目に見える変化だけでなく、仮説をたてながらたけのこの対話を深める。



### 活動③

## たけのこの皮の可能性を知る

#### 準備物

たけのこの皮 | ミクروسコープ  
パソコン | 霧吹き | 水

#### 環境構成

ミクروسコープや水を用いて、触れた時の感触、目を見た時の違いに気づきながら変化を楽しめるようにする。



### 活動④

## たけのこを味わう

#### 準備物

たけのこ(穂先、根本)

#### 環境構成

食材の部位によって味や感触の違いが分かるよう、穂先はすまし汁、根本はチンジャオロースに調理し、味わう。



・観察して描く



保育者が持ってきたたけのこを見ると、「たけのこだ！大きい」「触ってみたい」と興味を示す子どもたち。手にとって感触を確かめ、においを嗅ぎ、色合いを知る。その中で見たもの、感じたことを紙に描き、表現することにした。



「たけのこの周りにいっぱい線を描くの。だってたけのこがフワフワしていたから」

どうして皮はフワフワしているのかな？

「動物が食べるから？…もしかしたら皮をむきやすいようにフワフワなんじゃない？チクチクしていたら痛くて食べられないから」



「上のほうが黒い色だね」

「下は黄色っぽい。でも全部が黄色じゃないから少し明るい色にしたんだ」

「てっぺんだけ少し緑色なんだね。チクチクしているところが緑」

たけのこを目の前にすると、手に取り模様を指でなぞったり、見る角度を変えたりしながら描いていた。そこで生まれる、旬の食材「たけのこ」との対話。目には見えない想像の世界が可視化され、子どもたちの視点を知ることができた。そんな一瞬一瞬を大切にしていきたい。



たけのこの外見から中身へ。たけのこの皮を剥き、たけのこの対話を深めることにした。

表面の産毛に触れると・・・

「フサフサでお布団みたい」「たけのこって、土のお布団の中で寝ていたんだよね」  
～擬人化～

皮をむいてみると・・・

「色がかわってきたよ」「ツルツルしていて、ちょっと冷たい。手が濡れてきた」  
～変化への気づき～



匂いはどう？

「(皮をむいたら) 匂いが強くなった」

どうして匂いが強くなったのだと思う？

「皮がたけのこを守っていたのかな」

一度離れたたけのこを、再び鼻先に近づけ、匂いを繰り返し確かめる子どもたち。

たけのこの皮の外と中。自らの手で皮を剥き、その感触が手に伝わる。そして香るたけのこ。手で感じて、香りをかぐ。その中で、子どもたちは目に見える質的变化に着目するだけでなく、たけのこを擬人化していった。その姿は「たけのこ」を大切に扱おうとする姿へと繋がり、一つの食材が身近になっていく瞬間がそこにはあった。

たけのこに触れ、匂いを嗅ぎ、皮をむく。  
「フサフサしてる。なんでかな」「どうしてここだけ色が違うの?」「この線はなんだろう」  
ただの皮だと思っていたそのものに、たくさんの 問い が生まれていった。  
もっと見てみたい――。



そこで、顕微鏡で観察してみると…

「しましまの中にも線があったんだ!」

目には見えない模様。

「わあ!トゲトゲしてる」

「これってフワフワしてるところだ!」

触った時の感触と、目で見たときの違いに気付く。

水をかけたらどうなるかな?

「皮がびしょびしょになるんじゃない?」

「色が変わる?」

仮説を立てて実践してみる。すると…

「水が丸くなった…はじいてる!」

「じゃあ水にいれても濡れない?」



「水に入れると皮が柔らかくなってきた」

「パリパリしてない」

見た目や手触り、音の違いに気付く。

「なんか匂いが変わった…」 「匂いがしてきた。」

水に濡れたことで、皮本来のにおいが強まる、変化することに気付く。

「じゃあ次はなにしてみる?」



子どもたちの目には、たけのこの皮はただの外側ではなく、不思議さと面白さを通して見えていた。皮の中に広がる世界。見えなかったものを見ることで「ものの味方」そのものが広がっていった。

素材との対話は、ひとつの発見から次の探究へとつながっていった。この体験を通して子どもたちは、観察すること、仮説を立てて確かめること、そして変化を楽しむことを自然に学んでいると感じた。

## 活動④ たけのこを味わう

R7年5月

たけのこを実際に食べてみる。部位によって味や触感の違いが分かるよう、たけのこの「穂先」はすまし汁、「根本」はチンジャオロースにしてみた。



「穂先は、フワフワしているね」  
「こんなに柔らかいんだね」



「シャキシャキって音がするよ」  
「噛んでいるとだんだん甘くなってきた」



「食感が、違うから良く味わってみてね」という言葉掛けに、ゆっくりと口の中で噛みしめていく。一つの食材の中でも違う食感と味。

食材に触れる機会を事前に設けたことで、自らの感覚を通して食材に対する不思議さと面白さを感じてきた子どもたち。実際に食すということで、味わいにも深みが増したように思う。

栄養士・調理員が食に関する知識を持ち理解を深めたうえで、保育士と共同しながら、子どもたちを取り巻く食環境を考えていくことの大切さを感じた。

## 使用物

たけのこ | 机 | 椅子 | 画用紙 | 黒ペン | 絵の具パレット | 筆 | ミクロスコープ  
水 | 霧吹き | パソコン | バケツ | 雑巾

テーマ：たけのこ

## 全体の振り返り

旬の食材「たけのこ」との対話をする中で、目には見えない想像の世界が可視化され、子どもたちの視点を知ることができた。また、ひとつの発見から次の探究へとつながっていく姿から子どもたちは、観察すること、仮説をたてて確かめること、そして変化を楽しむことを自然に学んでいると感じた。自らの感覚を通して食材に対する不思議さと面白さを感じている姿から、子どもたちを取り巻く食環境を改めて考えていくことの大切さを感じた。

終



**株式会社モニカ**

〒105-0004  
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F  
TEL:03-6661-2466  
FAX:03-6661-2467

**モニカ都立大園**

〒152-0034  
東京都目黒区緑が丘1-2-14  
TEL:03-5726-9145  
FAX:03-5726-9146